

富山市総合計画審議会第6回協働部会 概要

場所：富山市役所 8階 802会議室

日時：平成18年11月20日（月）

17:30～19:05

1 開会

2 部会長あいさつ

山西部会長あいさつ

総合計画の策定もいよいよ大詰めとなってきた。

全体会での審議の後、各部会で審議されてきた。今回の部会で、各部会の意見を調整し、最終的に良い総合計画を作り上げたいので、協力をお願いする。

3 議事

- ・総合計画前期基本計画（案）についての意見と対応（案）について
- ・富山市総合計画前期基本計画（案）答申（案）について

< 概要 >

（部会長） 事務局から総合計画前期基本計画（案）についての意見と対応（案）について説明をお願いしたい。

（事務局） 前期基本計画（案）についての意見と対応（案）について説明

（部会長） 情報に関する記載についてであるが、電子自治体など自治体内部や自治体同士の情報化に関することは記載されているが、市民生活の中の情報化の視点が見られないのではないかと。例えば、学校教育の充実の中の情報化や多世代が学びなおせる環境の充実（再チャレンジの推進）など、情報教育、生涯学習の分野でも必要な視点でないか。

（事務局） 検討します。

（委員） 授業公開など、市民学習の分野で、大学と連携した講座に関することも記載が必要でないか。

また、市民に対して行政が情報化し、サービスが向上したことを測る指標が、市のホームページアクセス件数で良いのか。

もう一点、NPO 団体の数を指標としているが、NPO も活動の中身が重要であるので、その辺りを考慮できないか。

(部会長) ブロードバンド普及率など市民生活レベルでの情報化、電子化の活発さを測る指標が良い。以前、情報化が進んでいる都市のランキングで、富山市が上位にあった。その中にも参考となる指標があるかもしれない。

(事務局) 相応しい指標があれば、記載したい。

(部会長) 他、各部会の審議の中で、この意見と対応(案)に追加するところはないか。無ければ次に、富山市総合計画前期基本計画(案)答申(案)について事務局から説明願います。

(事務局) 富山市総合計画前期基本計画(案)について(答申)(案)の説明

(委員) 1 総括的事項の順序であるが、大きな視野からミクロな視野への順序とするため、(国・県との連携)→(一体感の醸成)→(市民の視点に立った行政運営)→(地域を支える市民活動の支援)→(成果を重視したまちづくり)としてはどうか。

(委員) 部会の議論の中で、最後にきて、合併時の建設計画との整合という意見が多数出てきた。この総合計画は合併の足固めとなるものと思う。まずはバランスよく発展すること、次に地域の個性を尊重すること、それにより一体感が醸成されるのではないか。

(委員) 了解した。ただし、(成果を重視したまちづくり)と(地域を支える市民活動の支援)については、逆の方が良い。

(事務局) 了解しました。

(委員) 総括のところで、協働を強調できないか。また、協働を支える市民活動の重要性も強調できないか。

(事務局) 検討します。

(委員) 書き込むときりがないが、安心分野の答申の中に、高齢者の住まいに関する記載が無いが。

(事務局) 基本構想の答申時に記載している。

(委員) 安全部会に関する分野では、特に問題ないと思う。

(委員) 潤い部会に関する分野は、概ね良いと思う。
1 点、気になるところは、総括的事項の(成果を重視したまちづくり

について)の部分で、指標の見直しについての表現は必要ないのか。

(事務局) 検討します。

(委員) 分野的には、活力分野か潤い分野であろうと思うが、中心市街地の賑わいづくりは、富山市の大きなテーマであるので、答申の中でふれるべきではないか。

(委員) コンパクトなまちづくりは、中山間地域の人にも中心に回帰する施策と誤解されがちであり、この点を明らかにした方が良いのではないか。コンパクトなまちづくりを進めることによって、全体的に賑わいの創出につながる。

(委員) (3)の人口対策のまちなか居住の部分で、まちの賑わいという表現はあるのだが。

(委員) 賑わいは、観光の面でも重要である。中心市街地の閉店が早すぎて、夜の比較的早い時間帯に真っ暗になってしまう。あれでは観光客が訪れない。人がいないから店を閉めるのか、店が閉まっているから人がいないのか、どちらが先かという話にもなるが、いずれにせよ、人が戻ってきて、賑わいが創出される方策が必要である。現在、中心市街地で、農村の女性グループが、朝市を開くなど、かなり頑張っている。でも、それだけで賑わいを生むことは難しい。

(委員) 市民説明会でも、コンパクトなまちづくりの打ち出しが弱いという意見があった。市民全体でコンパクトなまちづくりをする方向に向かいにくいところもある。

(委員) 1次、2次産業の視点はあるが、3次産業(商業・サービス業)の振興の視点が無い。中心の賑わいを創出するためにも、大きな課題の一つと思う。

(部会長) 事務局で検討してほしい。男女共同参画の視点が必要ではないか。それぞれの能力が発揮できる社会を作るためにも答申に必要な記述と思う。

(委員) この計画全般に“地域”という言葉がちりばめられているが、自治振興会ではその地域の考えが明確でないと、活動に支障をきたす恐れがある。意見と対応(案)のNo.54では、現況と課題に、「小学校区を単位として・・・」を追加するようだが、合併により旧の市町村は富山地域や大山地域と呼ぶ。また、小学校統合により、校区が広域化する場合もある。この計画でいう“地域”とは何を単位としているのか。

(事務局) 小学校統合によって、校区単位で存在する自治振興会をどうするのかは、住民の方々の話し合いで決まることと考えており、市として意見を言える立場にないと考えている。

(部会長) 従来からの自治会活動を縛るものではない。地域とは、非常に広がりを持った言葉であり、厳密に規定してしまうと逆に自治会活動を束縛してしまうのではないか。

(委員) 市民説明会の参加者からは、この計画はとにかく横文字が多くて、わかりづらいという意見が多い。住民が理解しやすいことが重要なので、直せるところは直してほしい。

(部会長) ほかに意見も無いようなので、本日の部会を終了する。皆さんありがとうございました。

(事務局) ありがとうございました。全体会は 11 月 28 日(火)に開催されるので、よろしくお願いします。なお、その際、答申(案)の説明については、山西部会長からお願いしたいと思います。

(部会長) 了解。

4 閉会

(以上)